

仏教絵画

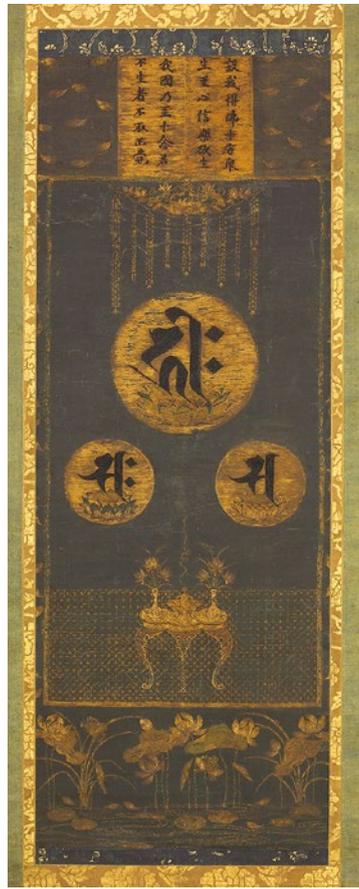
浄土信仰の絵画と柳宗悦

2022年

3月31日(木) - 6月12日(日)

日本民藝館





〔図版・左から〕阿弥陀如来像 伝張思恭筆 絹本着色 中国・南宋～元時代 13世紀 94.5×40.5cm / 種子阿弥陀三尊図 絹地刺繍 鎌倉～南北朝時代 14世紀 94.5×34.6cm / 六字名号 伝一遍筆 紙本墨書 鎌倉～南北朝時代 14世紀 32.6×8.8cm / 春日鹿曼荼羅図 伝住吉慶恩筆 絹本着色 鎌倉～南北朝時代 14世紀 108.7×38.3cm 全て日本民藝館蔵

日本民藝館の創設者で、美学者としても知られる柳宗悦（1889-1961）は、造形物に美が宿る原理を仏教思想に求めました。特に浄土思想は、柳の思想形成に大きな影響を及ぼし、晩年の1955年には柳著作の最高傑作とも評される『南無阿弥陀仏』を上梓しています。本展は来迎図を始めとする浄土信仰に関連した絵画を中心に、これまでまとめて紹介されることがなかった鎌倉～室町時代の着色の仏教絵画をご覧いただき、貴重な機会となります。

柳による中世の着色仏画のコレクションは、ほとんどが戦後の蒐集ですが、『南無阿弥陀仏』の刊行後に大病で左半身の自由を失ってしまった後、1958年から61年に没するまでの間に、特に集中的に集められています。そのためか、本展で取り上げる着色仏画について柳は多くを書き残していませんが、恐らくはこれらのコレクションを礎に、より一層踏み込んだ仏教美学の構築を目指して、世に問う意があったように思われてなりません。



柳宗悦著『南無阿弥陀仏』(特装本) 1955年 装幀・鈴木繁男



仏教絵画

『南無阿弥陀仏』(特装本)

『日本民藝館所蔵 仏教絵画 付・柳宗悦「種子阿弥陀三尊来迎繡画の入手の由来」』

著者：日本民藝館学芸部、柳宗悦 [B5判64頁・税込1,000円・2022年3月31日刊行予定]

柳宗悦の新出の原稿を書籍化いたしました。この原稿は未完成原稿ではありますが、亡くなる前年の1960年に、当館が所蔵する繡仏「種子阿弥陀三尊図」（上部図版左から2番目）について記した、『柳宗悦全集』（全22巻、筑摩書房、1980-92年）未掲載の論考です。

柳宗悦蒐集による館蔵の仏教絵画 20 点ほどを収録した図集とあわせ、1冊の本として刊行いたします。

□10:00-17:00(入館は16:30まで) □月曜休館(祝日の場合は開館し、翌日休館) □一般 1,200円 大高生 700円 中小生 200円 □西館公開日(旧柳宗悦邸)・会期中の第2水曜、第2土曜、第3水曜、第3土曜(開館時間10:00-16:30、入館は16:00まで) ※変更が生じる場合がございます □〒153-0041 東京都目黒区駒場4-3-33 □TEL.03-3467-4527 □京王井の頭線駒場東大前駅西口より徒歩7分

<https://www.mingeikan.or.jp/>

日本民藝館

次回展・復帰50年記念 沖縄の美 6月23日(木)～8月21日(日)

